

道路擴張に至るまで

神奈川縣廳 高田景

人間の聲が一秒時間に僅か三町四十間しか走らないのに同じ一秒時間に電氣は此地球を七廻り半する、

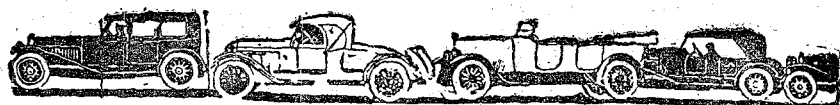
又例の忠臣藏殿中の變に際し淺野長矩の臣、早水藤右衛門菅野三平が早打を以て江戸を發し播州赤穂城までざつと百七十里の路程も四日半で着いたといふ當時の韋駄天も一日の割にすれば九十哩で鐵路數百里を一夜にして走る汽車に比すれば十分の一に過ぎない

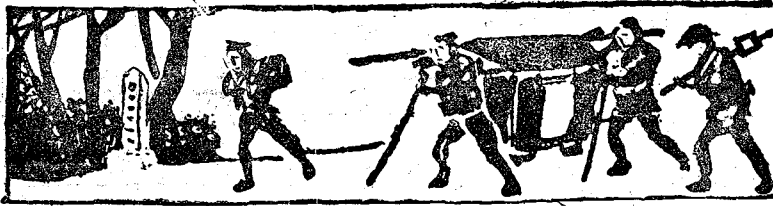
かくして人間といふ不可思議の動物は着々自然を利用して征服して時間と空間を極少まで縮少せしめ様としつゝある、

これによつて無限に擴大してゆく生存慾望を經濟的に救濟し様といふので最少の勞力を以て最大の効果を舉げ様とする、

そこで道路の問題に就ても文化と共に發達し經濟生活が複雑となるにつれて重要となつてくる、山には櫻花爛漫海には黒潮岸を繞りて流るゝこの東方の君子國も仲々長夜の眠をむさぼつて一小天地に踞踏してゐる譯に行か無くなつた、敢てマルサスの人口論を繕かずとも年々二百萬の人口増加率を如何せんやである、食料問題、土地問題、

等日本にとつて重要な問題は悉く經濟上の問題である、そして道路の問題も要するにその重點をこの經濟的根據に置いてゐるの





ではなからうか。殊に日本に自動車^{自動車}が輸入せられてからは道路の効用は鐵道の夫れを凌駕して今や『自動車第一』の時代となりつゝある、従つて道路の問題を決定する諸要項は自動車を標準とするに至つた。

本縣に於ける道路擴張に於ても無論此の方針に則りて計畫されてゐる。

本縣は東北は多摩川を隔て、東京府に接し、西北は山梨縣と隣し道志山脈連亘して峻岳谿深相錯り、又西南は足柄箱根の連峯に據つて睥睨縣と境し、酒匂相模の兩川此の間に發して南流海に入つてゐる、南は三浦半島突出し相模灣に臨み東は東京灣を隔て、房總半島と對峙してゐる、此廣袤一五五、三八六平方里、周圍一一〇里一〇丁、海岸線の長さ五四里であつて此の中に約一四〇萬人の住民を持つてゐる。

而して此の交通路は横濱港が對外的門戸として海外航路の起點となり陸上に於ては

國有鐵道の延長二〇五哩四鎮、大正十二年現統計に據る、道路總延長は國道三九里三十二町四十一間、府縣道三百二里三十一町三十八間に及んでゐるのである。

史實の傳ふる處によりて稽ふるに關東一帯は有史以前に於ては「ころほつくる」人種が棲息してゐたのであるが無論自給自足の時代であつたから人間の足によつて僅に踏み固められた自然の道の他はなかつたのであつて其後崇神天皇十年に武葦川別命が東海に派遣せられ又景行天皇四十年日本武尊の東征に際しては尾張遠江駿河を経て足柄峠を踰へ木賀溪を下りて鎌倉から三浦半島に入り走水から上總の富津に渡り給ふたとあるが、其時代に本縣に道路が立派に存在してゐたとは考へられない。

要するに近代の觀念としての所謂 Verkehr とか Transport and communication とかいふ交通上の政策は徳川幕府以後の事であつてそれが經濟上の地位を確立したのは





勿論明治以後の事である。

然し神奈川縣に於ては他の地方に比して比較的道路史上に大なる爪痕を跡づけてゐるのは彼の鎌倉幕府のお蔭で源頼朝配下の身を以て伊豆の蛭ヶ小島から起り幕府を鎌倉に創むるに及び専ら軍事上の必要から、都鎌倉間の交通が考慮せられたのであつて、新關を設けて「山手」「河手」を取つた。又圓覺寺や鶴ヶ岡八幡宮等も關料帆別錢橋賃等を取つたといふ事が横井博士日本商業史に見えるから相當の道路が開鑿せられてゐたことが推知せられる。

其後戰國時代を經徳川江戸幕府に入つてからは鎖國政策の反動として國內の土木治水に意を用ゐるので國內交通も長足の進歩をなしたとは云ふものゝ封建制度の弱點は隨所に暴露し道路に於ても一朝有事の際に處する爲には天險の要害に據らなければならぬので防禦的消極的の道路政策は近代の經濟的根據に立つものと異ならざるを得

なかつたのである。

本縣に於ても馬入川の如きは富士川、安倍川、大井川等と共に架橋渡船を許さず旅人は肩車に乗り連臺に坐して渡渉した。

六郷川亦然りて江戸の關門なるの故を以て、架橋を許さず不便なる渡船に依つて往來してゐたのである。彼の「雲助」と「ごまの蝸」を名物とする箱根の事は云はずもがなで、天下の公道に關門を設け全國三十六ヶ所の關所の首位であつたのである。

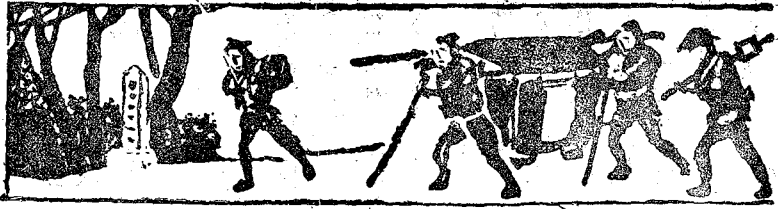
東海道既に然り況んや五街道を離れた。

僻陬の地の如きは全くの孤立生活に甘んじてゐたのであつた。

神奈川條約によつて鎖國の夢が破られてから横濱と江戸との交通が頻繁となつたにも不拘猶ほ六郷の一橋すらもなかつた。

明治四年八月二十七日工部省は米人技師の實地研究及び其申立書に基き神奈川縣に達して曰く





東海道六郷川僅々の増水に動もすれば通船を止め之が爲、公事急務の往復を妨げ且つ外國人日に往來の地なれば修治せざるべからず増水の節は艀船を用ゆれば通行には差支なしと雖も一對の流川に渡船を設くるは煩に堪へず是を以て横濱其他市在に於て人民會社を設け一時出金橋梁成功の上年限を定め相當の橋錢を請求せしむべく實地に就き研究の上便宜の方法を申出づべし

と此れが六郷橋架設の起りであつた。

明治五年の秋には京濱間鐵道十八哩が完成して先帝親しく開通式に臨ませ給ふた。

爾來五十有餘年今日全國の鐵道總延長實に八千餘哩に及んでゐる、そして廣軌狹軌の問題が残されてはゐるが鐵道網は殆ど遺憾なき迄に完成せられたのである。

然るに「道路の改良」第五卷第三號に於て牧博士が述べられた様に吾國の道路は歐米

の夫れに比し少くとも百年遅くれた。

高速度の自動車が自由に疾驅して交通機關の職能を完ふするには餘りに路面が貧弱過ぎる、餘りに幅員が狭少に過ぎ將來自動車の利用がもつと一般的となり輻輳煩繁を極むるに至らば辛じて二車線を容るゝに過ぎないやうな現在の狀態に剩じてゐること

は出來ないのである

且つ明治二十一年十一月公共道路條例の規定以來三十有二年を経たる大正八年四月法律第五十八號道路法が制定せられ關係法令續々制定せられ已に道路行政の根底が確立せられたる以上は此の範圍に於て技術と政策兩方面から最も時代に適應した道路の完成を急がなければならぬ様な機運になつたのである。

そして其の機運を偶然にも促進せしめたものは昨大正十二年九月一日正午に突發せる大震災であつた。(以下次號)

